

コード No. 10363

**Anti-Mouse
BEC12 (LA5) Rat IgG MoAb**

容量 : 100 µg

はじめに : 近年、血管内皮の特異的な抗原が次々に発見され、血管生物学の進歩に大きく貢献しています。本抗体は、これまで報告のあった抗体とは異なり、末梢血管の中でも特に小動脈・毛細血管までの動脈性微小循環系、さらに一部の小静脈系の内皮細胞と反応します。この抗体は、アジュバントで誘導された良性のリンパ管腫(腹腔内腫瘍)を抗原とし、さらに免疫原性の弱い抗原をより効率良く免疫する方法 (rapid differential immunization technique)を用いて作製された、リンパ管内皮とは全く反応しない、これまでに報告の無いタイプの血管内皮に対する(部位特異性を持つ)抗体です。ただし、一部の血球と反応します。

免疫抗原 : Mouse lymphangioma

起源 : ラット×マウス ハイブリドーマ (培養上清)
(DA ラットリンパ節細胞 × X63 - Ag 8.653)クローン名 : LA5 サブクラス : IgG_{2a}, K

精製方法 : 抗原特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8°C 保存 5年間安定
溶解後 -20°C 保存 2年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 0.1~1 µg/mL にて使用可能 (新鮮凍結切片、アセトン固定(室温 10分)または4%パラフォルムアルデヒド灌流固定(室温 10分以内))

特異性 : マウス血管内皮細胞の約 12 kDa の膜上タンパク抗原と反応します。
一部のリンパ系細胞とも反応しますが、リンパ管や大型・中型の動静脈の内皮細胞とは反応しません。

交差性 : human, rat, guinea pig とは非交差

文献 : 1. Ezaki T, Kuwahara K, Morikawa S, Shimizu K, Sakaguchi N, Matsushima K, Matsuno K. Production of two novel monoclonal antibodies that distinguish mouse lymphatic and blood vascular endothelial cells. Anat Embryol (Berl). 2006 Oct;211(5):379-93.